

※本メルマガ「きたやま通信」の配信を個人で希望される方は、こちらの 二次元 コード(もしくは URL) から、メールを受信できるアドレスの登録をお願いします。また、本メルマガを多くのお知り合いの方々にご紹介いただければ幸いです。



<https://forms.gle/UGNXEb9q5ysYwGBG8>

※ いつも当メールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。

このメルマガは、皆さまのためにあるものです。どうぞ、ご遠慮なく、あなたの声を聞かせてください。

興味、関心、そして「こんな情報がほしい!」「もっと深く掘り下げてほしい!」「もっとこうだったらいいのに」という願いを、ぜひ教えてください。

どんな些細なご意見・ご要望でも大歓迎です。あなたの声を心よりお待ちしております!

次の二次元コード・URL よりお願いいたします(巻末にもございます)。



<https://forms.gle/6Paz2r3FJimxz5kb8>

■1 研修室点描

- ◇1 令和7年度新規採用予定者採用前研修講座(中学校 高等学校)
- ◇2 新規採用教員〔初任者〕研修講座(小学校)(中学校)(高等学校)
- ◇3 思考力・判断力・表現力を育成する授業づくり研修講座(社会・地理歴史・公民)第2日
- ◇4 思考力・判断力・表現力を育成する授業づくり研修講座(算数)第2日
- ◇5 新規採用〔初任者〕研修講座(小学校)第12日
- ◇6 中堅教諭等〔前期〕資質向上研修講座(特別支援学校)第7日

■2 センター事業のご案内

- ▼ NITS・茨城県教育研修センターコラボ研修「教師の魅力を考えるセミナー」

■3 実践家の魅力に迫る! ~アクティブラーナーにインタビュー

■4 参考資料等のご紹介

- ▼1 生成 AI の具体的な活用方法がここに!!(情報教育課)
- ▼2 一般財団法人 LINE みらい財団「2025 年度版 GIGA ワークブック」のご紹介(情報教育課)

■5 推挽録(編集に寄せて)

岡村正洋(特別支援教育課主査)

■1 研修室点描

- ◇1 令和7年度新規採用予定者採用前研修講座(中学校 高等学校)
 - 【期日】 2月19日(水)(高等学校) 2月26日(水)(中学校)
 - 【人数】 122名(高等学校) 247名(中学校)

【内容】

〈講義・演習〉「児童生徒や保護者、地域の人々とのよりよい関係づくり」		教職教育課職員
〈講義・演習〉「生徒支援・いじめ対策について」(高等学校)		高校教育課職員
〈実践発表・研究協議〉「チーム学校としての取組」	日立市立多賀中学校	宮本 佳奈教諭
	県立磯原郷英高等学校	田口 裕菜教諭
	県立三和高等学校	山田 和輝教諭
〈講義・研究協議〉「授業づくりで大切にしたいこと」		教科教育課職員
〈講義・実践発表〉「学級開きの構想」(中学校)	坂東市立猿島中学校	月岡 真琴教諭

【受講者の声】

- 自分が講師として働いている中で曖昧だった教員の仕事内容や心構えが明確になりました。教員間の関わりや、保護者対応、生徒対応、教科の授業づくりなどたくさんのことを学ぶことができたので、今までの経験に更にプラスして活かしていきたいと思います。(高等学校)
- 生徒・保護者、そして先生方とのコミュニケーションの大切さを改めて学ぶことができました。4月からの学級経営、授業づくりの際には、生徒の些細な変化の把握を大切に、先生方との何気ない雑談の中から、指導のヒントを得ていきたいと思っています。(中学校)

【教職教育課より】

- 採用予定者採用前研修講座は、第1日はオンデマンド研修、第3日は所属校による研修となり、今回の研修が同期の先生方との初顔合わせでした。オンラインでの研修ではありましたが、交流の時間を多くとったことで、現在の悩みや準備しておきたいことなどを共有する良い機会となったと思います。教員としての使命感をもち、4月から新規採用教員としてフレッシュな気持ちを忘れず主体的に勤務していくことを期待しています。

◇2 新規採用教員〔初任者〕研修講座(小学校)(中学校)(高等学校)

【期日】

小学校 第14日 I期2月12日(水)、II期2月19日(水)
中学校 第14日 I期2月 4日(火)、II期2月18日(火)
高等学校 第15日 2月6日(木)

【人数】

小382人、中257人、高107人

【内容】

小、中：〈演習〉「児童生徒がつくる学級活動の指導のポイント」
〈演習〉「児童がつくる学級会を目指して～模擬学級会～」
高： 〈演習〉「ホームルーム担任として求められるマネジメントの在り方」
〈実践発表・研究協議〉「生徒の主体性が育つホームルーム運営の実際」
小、中：〈講義・演習〉小学校「小学校における発達段階に応じたキャリア教育」
中学校「キャリア教育の意義と進め方」
小、中、高：〈研究協議〉「1年間の研修の成果と次年度への課題」
高： 〈講話〉「これからの教員に期待されること」

【参加者の声】

- 学級活動で話し合い活動を行う際、これまでは多数決を取り入れていたが、これからは合意形成を大事に進めていきたい。生徒の主体的な話し合いのためには、切実感のある議題や明確な提案理由、話し合いのゴールの姿を明確にすることが重要であるとわかった。
- ホームルーム経営において、リーダーとなる生徒を育てていくという実践例は参考にしたいと思った。また、生徒一人一人に役割を与えることでその生徒に責任を持たせることができ、より良い学級経営につながる事がわかった。
- キャリア教育においては、各授業や学校生活の中にある社会的職業的自立につながる活動を見出すことも大切であると理解した。子どもの可能性を広げるために、今学んでいることと将来のつながりを意識できるよう指導を工夫していきたい。

- 自分自身の1年間を振り返る中で、自分が教師として大切にしたいと考えていることを再確認し、その思いを具体的な行動として考えることができた。教師という仕事への意欲を高めることができた。
- これから担任や初めての業務に取り組む上で、自分の課題や目標を設定して、目指す自分の姿を常に意識していきたい。
- 自分が教員として何を求められているのか、またそのような期待に応えるためには何をすべきなのか、常に考えることが重要であると感じた。

【教職教育課より】

学級活動、ホームルーム活動、キャリア教育について深く学び、次年度へ生かそうと高い課題意識で臨む姿がありました。また、一年間の経験やこれまで研修を振り返り自分自身を見つめたことで、学びや成長に気付くとともに目指す教師の姿を捉え直すことができたようです。その思いを大切に、次年度もやりたい教師（自分）に向かって前進してほしいと思います。

◇3 思考力・判断力・表現力を育成する授業づくり研修講座（社会・地理歴史・公民）第2日

【期日】令和7年2月4日（火）

【人数】46人（小、中、高）

【内容】

- <研究協議>「思考力・判断力・表現力を育成する授業改善の共有～表現する場面でのパフォーマンス評価～」
- <講義・研究協議>「社会の成り立ちから学び、よりよい社会を創造する力を育成する社会・地理歴史・公民科教育の在り方」 筑波大学 唐木清志教授

【参加者の声】

- 主体的に社会参画するための教育には、主権者教育が必要不可欠であるということを、改めて確認することができた。また、「社会的課題」「多角的考察」「選択・判断」「提案・参加」の視点をもつことが授業をつくる際にとても役立つと感じた。
- 他の先生方の実践を聞いて、自分の授業で足りない部分が気付くことができた。校種の違う先生方と交流ができ、プラスになった。単元を貫く課題の設定を大切にして、自分事、当事者として捉えることも取り入れるように発問や評価の仕方を工夫しながら、さらにより授業をつくっていきたい。

【教科教育課より】

- 本講座は2日間の研修です。第1日は所外研修の形で、9月に水戸生涯学習センターを会場として実施しました。思判表の育成に向けた指導案検討に加え、裁判所見学を行いました。第2日は、第1日で検討した授業を実践した内容を報告し合い、成果と課題を共有しました。
- 筑波大学の唐木清志教授の講義では、「主体的に社会参画するための教育」という視点を示していただきながら、新しい学習指導要領に向けた諮問や教育課程実施状況調査などの最新の教育情報に触れつつ、社会科が目指す教育の姿をお示しいただきました。また、「多面的」、「多角的」という社会科の重要な用語の捉えについて具体例を示しながら解説していただき、それを踏まえながら受講者の実践をもとにした演習も取り入れていただきました。
- 本講座を通して受講者は、授業づくりのアイデアを共有することができ、唐木教授の講義での「多面的・多角的」に考えることについての解説と合わせて、思考力・判断力・表現力を育成する授業づくりについて学びを深めることができました。今後の授業改善に生かし、魅力的な授業づくりを実践していくことを期待しています。

◇4 思考力・判断力・表現力を育成する授業づくり研修講座（算数）第2日

【期日】令和7年2月20日（木）

【人数】29人

【内容】

- <研究協議>「授業デザインの共有」
 - <講義・研究協議>「実生活の問題を解決する算数の学び」 明星大学 客員教授 細水 保宏
- 【参加者の声】

○まずは自分自身が算数を大好きでいること、算数を学ぶ面白さや必要性を感じていることが必要だと気が付いた。算数が大好きで心から面白いと思っている教師から学ぶ算数は面白いだろうと思う。もっと膨らみのある授業を展開していきたい。

○算数の楽しさ、算数のよさや美しさを改めて考えるきっかけとなった。日々の授業に追われるのではなく、児童と一緒に楽しみながら算数の授業ができることの幸せを感じながら、授業をしていきたいと思った。

【教科教育課より】

○第1日は、講義や実践発表を通して、思考力・判断力・表現力を育成する算数科の授業づくりについて考えを深めました。第2日は、授業実践の具体や評価問題の解答について、児童の姿を中心に協議を行いました。明星大学の細水先生の講義では、日常生活にある算数の事例を多数取り上げていただきました。日常にある算数を見付け、授業に生かしていくことで、児童が算数のよさを実感し、主体的な学びへとなることを、受講者は実感していました。

○受講者は2日間の研修で、育成したい資質・能力を明確にした授業実践や、実践内容の共有、大学教授等の講義を通して、思考力・判断力・表現力を育成する授業づくりについて学びを深めることができました。

◇5 新規採用〔初任者〕研修講座（小学校）第12日

【期日】 令和7年1月29日（水） I期

令和7年2月5日（水） II期

【人数】 I期 188人 II期 193人

【内容】

<演習> 「こどもとの信頼関係のつくり方～育ちを促すアプローチ～」

<研究協議> 「育ちを支える私の実践」

【参加者の声】

○ロールプレイを通して、教員の声かけの工夫やそれに対する児童の感じ方など、多方面から育ちを促すアプローチについて学ぶことができた。

○生徒指導においては、まず、こどもの理解が大切だと感じた。こどもが困っている様子について丁寧に聴きとり、こどもの思いを受け止めて、こども・保護者・学校で協力しながら対応を考えていくことが大切だと感じた。

【教育相談課より】

○受講者のアンケートからは、演習を通して、こどもとの信頼関係のつくり方について理解が深まったという回答が多く見られました。また、実践をもとにした研究協議を通して、自分の関わりについて振り返ることの大切さに気づき、さらに研鑽を積んでいきたいという意識の高まりを感じました。

◇6 中堅教諭等〔前期〕資質向上研修講座（特別支援学校） 第7日

【期日】 令和7年2月20日（木）

【人数】 69名

【内容】

<発表・研究協議> 「児童生徒の課題の解決を目指した事例研究」

【参加者の声】

○分散会で共に研究協議を行った先生方の事例研究は、テーマも実践内容も様々だが、どれも大変参考になる実践ばかりだった。その中で、児童の支援に加えて保護者の支援を必要とする事例では、丁寧な支援をすることにより子どもの成長を促し、さらに保護者の行動や気持ちを変える力があるということを再確認できた。これからも保護者と共に子ども達の成長を見守り、寄り添いながら支援していけるよう、自己研鑽を積み重ねていきたい。

○研究協議では、それぞれが今まで実践した研修の成果が共有でき、とても参考になった。また、分散会のメンバーが一年間ずっと一緒であったので、他の先生方と仲良くなれてよい出会いに恵まれた。それぞれの先生方が1年間行ってきた研修はどの発表も素晴らしく、今後の自分の実践にも生かしていきたい。

【特別支援教育課より】

○本講座では、受講者の先生方に中堅教諭として、対象の幼児児童生徒一人一人の実態を奥深く見つめながら、課題解決を目指して事例研究に取り組んでいただきました。当日の発表では、対象の幼児児童生徒に応じた効果的な指導プログラムや、興味・関心を引き出すための教材・教具の開発など、様々な工夫が見られました。

○事例研究の取組では、いつも成功するとは限りません。苦労もたくさんあったと思います。事例研究の取組は、その苦労を乗り越え、指導の在り方を改善していくことに価値があります。ご自身の事例研究の成果や分散会での研究協議を通して得られた多くの成果を、今後の教育実践につなげていただけることを期待しています。

■2 センター事業のご案内

▼ NITS・茨城県教育研修センターコラボ研修「教師の魅力について考えるセミナー」

【期日】 令和7年2月1日(土)

【人数】 教育関係者、学生、保護者等242人(本センター講堂 参集型142人、オンライン型100人)

【内容】

〈基調提案〉「ウェルビーイングな学校創りと先生の働き方」を考える上で必要な「視点」について提案

〈研究協議〉3分散会(①管理職等、②ベテラン・中堅教諭、③若手教員・学生等)

「ウェルビーイングな学校創りと先生の働き方」のために必要なこと、自分にできること等について対話

対話をとおして、これまでの自分自身を見つめ直し、新たな気づきを得ることで視座を高める

〈講演〉「思うは招く 夢があればなんでもできる」 講師 植松電機代表取締役 植松 努 さん

「子供の夢や可能性が奪われない社会を!」「子供の『すき』を大切に」

「『どうせ無理』をなくし、『だったらこうしてみたら』と子供に声をかける」「失敗が怖いのではなく、評価が怖い」

「ちゃんとしなさい!は危険な言葉」「人は足りないからこそ助け合える。自分をダメだと思わないで」

「『してもらう人』から『してあげる人』へ」「『違うはステキー!』は奇跡を起こす言葉」「知恵と経験と人脈にお金を使う」

「諦めないために必要なことは、人に夢をどんどん話すこと」「やったことのない人ではなく、やったことのある人とつながる」

「ロケット開発は手段。世の中から『どうせ無理』をなくし、虐待をなくし、全ての人に自信がもてる社会を」

〈パネルディスカッション〉「ウェルビーイングな学校創りと先生の在り方〜」

○パネラー

大阪市立大空小学校初代校長 木村 泰子 さん

時事通信出版局編集委員 坂本 建一郎 さん

植松電機代表取締役 植松 努 さん

教育研修センター主任指導主事 眞崎 恒一郎

「子供が育つ学校に」「全ての子供の学習権を保障」「人のせいにしない子供」「学びの目標は、その子がその子らしく育つこと」「学校教育からヒエラルキー、同調圧力、前年踏襲を捨てる」(木村泰子さん)

「自分の人生を生きるためには、『自分が納得できる事』と『そのためには自分はこれからどうしたいのか?』を考えること」

「未来が不安なのは予測ができないから 先ずは自分でやってみる」「人は皆違っていい、歯車はギザギザだから噛み合う」「決まり(ルール)の意味を考えてアップデートする」「説得された自分と納得した自分では未来が違う」

「過去は変えられないけど未来は変えられる」(植松 努さん)

【参加者の声】

○「【基調提案】では、自分自身の心の在り方、人生観等、自己内省するよい機会となった。」

「ウェルビーイングな働き方につながるたくさんの視点を得ることができ、午後の対話への意欲が高まった。」

○「【研究協議】では、事前の基調提案で視点が明確になっていたのも、自分の在り方を見つめるよい機会となった。」

「自分自身のウェルビーイングな生き方が子供のウェルビーイングにつながる事が分かった。」

○「【講演・パネルディスカッション】を聴いて、子供たちに『すき』を貫く大切さを伝えたい。」

「子供たちの可能性を信じ、『だったらこうしてみたら』を日々使っていきたい。」

「『人は足りないから助け合える』という言葉に、出来ないことはダメなことではないと思えました。」

○「私たち教師の一言が、子どもたちの成長を促すことも、可能性を狭めてしまうこともあるということを再認識した。」

「自分自身が明るい気持ちで働くことで、学校がいい形で動いていくと思います。日々の生活に楽しみや目標を持ちながら人生を豊かに生きること、みんなが笑顔の学校を創ることができるのではないかと考えています。」

【教職教育課より】

- 今回のセミナーは、「ウェルビーイングな学校創りと先生の働き方」についての対話や講演等とおし、参加者の皆さんが「自己の在り方を見つめ直し豊かな気付きを得る」ことを目的として一日の流れを工夫しました。
- 参加者の皆さんは「ウェルビーイングについてのわかりやすい基調提案があり、分散会では、自分の思いを話す場があり、パネルディスカッションでは、楽しさもあり、とにかく充実した一日となりました。」等のご感想を多数いただきました。今回のセミナーが、皆さんが自己の在り方についての気付きや問い直しを続ける「きっかけ」となり、豊かな人生観や教育観を得ることにつながれば幸いです。



■3 実践家の魅力に迫る！～アクティブラーナーにインタビュー

石岡市立石岡小学校 金野 理恵 教諭

金野先生は特別活動の分野で熱心に研究を進め、素晴らしい授業実践をされています。

小学校2年生の学級活動(1)『6年生とあそんだ昼休みのさいごに「ありがとうの会」をしようの』授業では児童が主体的に話し合い活動を進める授業展開の工夫が多く見られました。『反応「あいうえお」』や『「きく」の7段階』など、話し合い活動を進めるうえでの共通の事項を共有し、それを子どもたちが理解して話し合い活動を進めていました。また、すべての児童が自分事として話し合いに参加し、合意形成に至る過程を子どもたちが理解し話し合いを進めている姿がとても印象的でした。

【実践者の振り返り】

① 授業を振り返っての感想

学級活動(1)においての合意形成のプロセスを勉強し、子供たちに伝えていきました。そして友達の話の聞き方を学級のみならず大切にしていった結果、次第に自分たちで計画を立て、活発な話し合いができるようになってきました。授業では、子どもたちが自信をもって堂々と自分の意見を言う学級会ができたと思います。まだ改善点はありますが、今も子どもたちが話し合いを楽しみにしていること、自分たちで決めて実践する心地よさを感じていることを嬉しく思います。また、元文部科学省視学官、現帝京大学教育学部教授の安部恭子先生にもご指導いただきました。授業の組み立て、指導案の作成、当日の授業のご指導まで細部にわたるご指導をいただいたのでとてもよい経験となりました。

② 今後の展望

今はまだ、学級の中の議題について話し合っています。しかし、いずれこの子どもたちが中学年、高学年になって、学校全体をリードしてくれるようになってほしいと願っています。一人一人の子どもたちが、学級・学校に所属していることを誇りに思っ、学校生活をよりよくしていきたいと声をあげられるように、私たち教師が見守り、支援していきたいと思っています。

私自身も、周りの先生方と情報を交換しながら、今後も研修に励んでいきたいです。

※インタビューから金野先生の学級の子どもたちに対する思いや、話し合い活動を大切にしている姿が見られました。これからも2年生で身に付けた話し合いの技能を活かし、自発的・自治的な活動を推進していく児童の姿が楽しみです。

■4 参考資料等のご紹介

▼1 生成 AI の具体的な活用方法がここに!!(情報教育課)

文部科学省リーディング DX スクール WEB サイトでは、生成 AI パイロット校の活用の実際が具体的なプロンプトを示

しながら紹介されています。

例えば、学級にはない視点の導入、考查問題の作成、ルーブリック作成、各種便りの文章案作成、記述問題の解答添削、授業案作成、所見作成、困り感のある生徒への対応策作成等々。

日々の授業や業務が劇的に変わるアイデアが見つかるかもしれません。

ご一読をおすすめいたします。

[URL] <https://leadingdxschool.mext.go.jp/achieve/ai/>

▼2 一般財団法人 LINE みらい財団「2025 年度版 GIGA ワークブック」のご紹介(情報教育課)

一般財団法人 LINE みらい財団は、GIGA スクール構想下における教育現場の支援を目的に、活用型情報モラル教材「GIGA ワークブック」を無償で提供しています。

2025 年度版は①「場面強制想像法」による子供たちに自覚を促す教材 ②スマホ・ゲーム以外の時間を充実させるための教材 ③昨今のトラブル(生成 AI や盗撮等)への対応法に関する教材が追加されており、発達段階別に 144 のコンテンツが掲載されています。

また、誰でも無理なく情報モラル教育を実践するための動画教材や活用の手引、校内研修の例示などもあわせて公開しています。

授業や校内研修、自主研修にご活用いただける教材であると思いますので是非参考になさってください。

[URL] <https://line-mirai.org/ja/events/detail/new/176>

■5 推挽録(編集に寄せて) 特別支援教育課 主査 岡村正洋

▽ 昼間たかし(ルポライター)さんの「『赤字だから仕方ない』そんな“ローカル線廃止論者”に、私が 1 ミリも同意できないワケ」という Web ニュース(今年の 1 月 5 日)を読んだ。その中で、ドイツの社会学者であるマックス・ヴェーバーは、「合理化が進むほど、社会的な公平性や倫理的な判断が犠牲になる。効率が最優先されることで、人間らしさや社会的なつながりが後回しにされる危険がある」と指摘しているという。

最近では、スマホの QR コードによる注文やロボットによる運搬、セルフレジ、スマホでの振り込みなど、店員や事務員等と会話をしなくても用を済ませることができるようになった。一方で、「おはようございます」「ごちそうさま」「ありがとうございました」「お大事にしてください」という言葉が聞かれなくなった。学校現場でも、年休の連絡が電話ではなくメール等になったところもあるという。効率化や合理化を優先するあまり、気遣いや心遣いの文化の衰退につながってしまうのではないかと懸念する。時代が変わっていくのは仕方ないが、言葉によるコミュニケーションを通し、人と何かを共有することが、豊かな情操を培っていくものなのだ。身近な人間関係を再構築するうえでも、たまにはお茶を飲みながら雑談を交わしていくゆとりが、今こそ必要なのではないかと思う。

※ メールマガジンについてのご意見・ご要望をぜひこちらまでお寄せください。



<https://forms.gle/6Paz2r3FJimxz5kb8>